

帯海域にしか分布しないにも関わらず、タイマイと思われる個体、アオウミガメ、ココヤシ2個が2014年春という同時期に石狩湾沿岸まで北上して漂着したことは、海洋の物理状態に何かしらの変動があったことを示唆している。ただし当時（2014年3月～5月）の石狩湾周辺の海面水温は決して高くない（平年並～1℃低い、気象庁ホームページ）ことから、単純に水温だけが要因ではないと思われる。その解明のためには、他の漂着物の状況や各種観測値を検討していく必要がある。

**謝辞：**今回のタイマイと思われる個体の標本と情報は石橋孝夫さんからいただいた。2014年のアオウミガメとココヤシの漂着情報は工藤友紀さんからいただいた。ウミガメの同定に際しては、徳田龍弘さん、おたる水族館にご協力をいただいた。皆様に感謝いたします。

#### 引用文献

- 平手康市・亀崎直樹. 1994. アオウミガメとタイマイの雑種について. うみがめニュースレター. (20) : 20.  
 気象庁ホームページ. 過去の気象データ検索.  
<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>  
 気象庁ホームページ. 海洋の健康診断表.  
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index.html>  
 亀崎直樹. 1983. 知多半島でふ化したウミガメがアカウミガメとタイマイとの雑種の可能性について. 爬虫両棲類学雑誌 10 : 52-53.  
 中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 保育社, 大阪. 214p.  
 日本ウミガメ協議会ホームページ. 死体漂着の状況. [http://www.umigame.org/J1/pg31.html#umigame\\_shitai](http://www.umigame.org/J1/pg31.html#umigame_shitai)  
 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏. 1996. 日本動物大百科／両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社, 東京都. 189p.  
 志賀健司・伊藤静孝. 2008. 2007年に北海道

石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物. 漂着物学会誌 6 : 11-16.

志賀健司・伊藤静孝. 2011. 2005年～2009年の石狩湾沿岸におけるアオイガイ漂着. いしかり砂丘の風資料館紀要 1 : 13-19.

志賀健司. 2013. 北海道石狩湾沿岸に2010年と2012年に漂着したタコブネ. 漂着物学会誌 11 : 33-34.

徳田龍弘. 2011. 北海道爬虫類・両生類ハンデイク鑑. 北海道新聞社, 北海道. 95p.

(〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

いしかり砂丘の風資料館)

(Ishikari Local Museum

Bentencho30-4, Ishikari, Hokkaido 061-3372, Japan)

---

## Errata (訂正) : ニホンマムシの遠軽町と紋別市の 生息確認について

徳田 龍弘

---

2014年7月25日発行の北海道爬虫両棲類研究報告VOL. 2の22, 23ページに掲載された「ニホンマムシの遠軽町と紋別市の生息確認について」(徳田龍弘)について、表中に誤りがありました。お詫び申し上げます。誤りについては下記の通り訂正いたします。

23ページ 表1：採集したヘビの抜け殻の情報

誤：B 両端の体鱗列数 15, 15

正：B 両端の体鱗列数 15, 19

23ページ 表1：採集したヘビの抜け殻の情報

誤：C 両端の体鱗列数 19, 21

正：C 両端の体鱗列数 19, 23

(〒005-0021 北海道札幌市南区真駒内本町7丁目4-27  
 ばいかだ WILD-PHOTO)